【遠江（とおとうみ）地震と池口くずれ】

池口くずれ

約 1300 年前(※1)に遠江(※2)や三河を揺るがした大地震（遠江（とおとうみ）地震）が起こりました。この地震で池口川上流の日陰山が大きく崩壊し池原ができました。約 1300 年たった今でも、崩れ落ちた岩塊の一部が池口川の両岸に残っています。
大崩壊による大量の岩石は、遠山川との間にあった尾根までも乗り越え、遠山川本流へ流れ込みました。池口川と遠山川には、せき止められたことによる天然ダムがそれぞれできました。
遠山川上流の広い氾濫原では、多くの森林が湖底に沈み、岩石や土砂に埋もれ埋没林となりました。

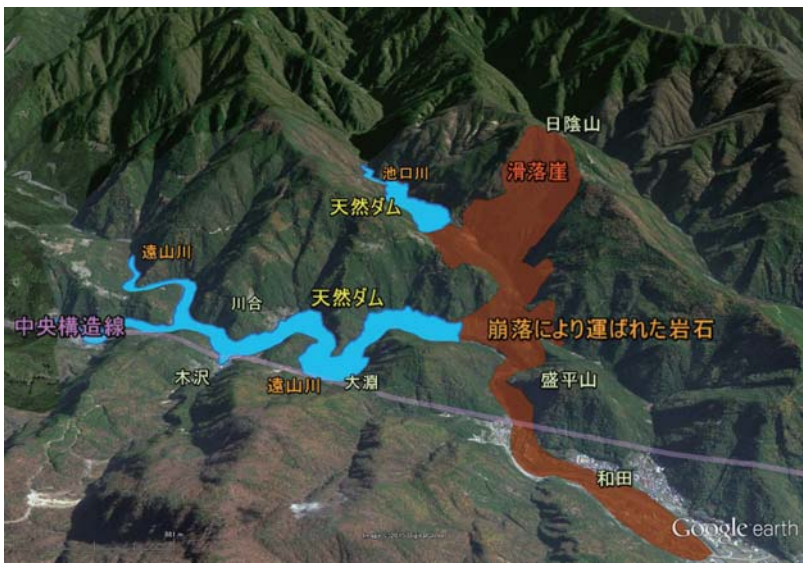
遠江地震前

■原生林と川の流れ
遠山川は今よりも深い峡谷となっていて、両岸はヒノキ・ツガ・ケヤキなどの巨木が茂る原生林でした。
現在、大島で遠山川に合流している池口川は、もともとは小池沢の谷を流れて和田で合流していました。

約 1300 年前

遠江地震と池口くずれ

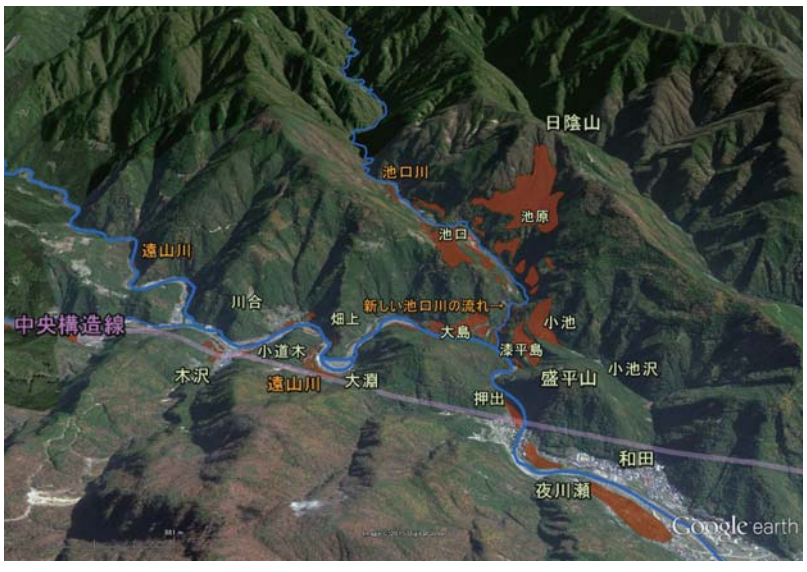
■天然ダムと埋没林
約 1300 年前の 7月4 日（旧暦 5 月 25 日）、梅雨のさなかに起こった直下型地震（遠江地震）により、遠山川沿いではいたる所で山崩れが起こりました。
中でも一番大きな崩れは、池口川左岸の日陰山の**池口くずれ**で、この時の大量の岩石は、池口川をせき止め上流側に**天然ダム**を作りました。大量の岩石は、池口川の右岸側の尾根をも乗り越え、遠山川本流へ流れ込み、せき止め、遠山川にも**天然ダム**ができました。
この天然ダムに沈んだ森の木々は、流れ込んだ土砂に埋まり埋没林となりました。



遠江地震後

■池口川の川筋
日陰山の崩壊による大量の岩石により、池口川の流れは変わり、大島で遠山川に合流するようになりました。

■遠山（とおやま）地震（1718 年）
遠江地震から約千年ほど後の 1718年に再び遠山地震が起きました。この時は盛平山（森山）の北西斜面がくずれ、出山ができました。遠山川もせき止められ天然ダムができましたが、やがて決壊して大洪水が起こり、夜川瀬から和田の町に広く氾濫しました。



※1 遠江地震の発生年は「続日本紀（しょくにほんぎ）」「日本紀略（にほんきりゃく）」による 715 年、「扶桑略記（ふそうりゃっき）」による 714 年と諸説あります。
※2 遠江とは、静岡県西部地方を指す呼称で、遠州（えんしゅう）ともよばれる。